

遺伝子発現解析から

公開シンポジウム

参加費・無料

CAGE法を用いた

新たなトランスクリプトーム解析事例と実際

2014.11.19

水

転写産物解析へ

本シンポジウムは公開形式です。みなさまのご来場をお待ちいたしております。
マイクロアレイやRNA-Seqは使ったことがあるけれどCAGEは聞いたことがない…
CAGEって名前は聞いたことあるけれど使ったことがない…
ゲノムの違いは確認したけれどRNAへの転写は見えていない…
疾病組織と正常組織との転写レベルでの違いを知りたい…
non-coding RNAがどのように転写制御機構に関わっているかを調べたい…
転写量からプロモーター活性を調べる手がかりが欲しい…
などと思っているみなさん、ふるってご参加ください。

会場 | 理化学研究所 横浜キャンパス 交流棟ホール
開催日時 | 2014年11月19日(水) 午後1時から5時半まで

会場へのアクセスはこちらのURLをご覧ください。
<http://www.yokohama.riken.jp/access/index.html>

お問い合わせはシンポジウム担当まで
神奈川県横浜市鶴見区末広町 1-7-22
Tel : 045-503-9237
E-mail: LSA-support@gsc.riken.jp

主催・独立行政法人理化学研究所 ライフサイエンス技術基盤研究センター 機能性ゲノム解析部門



お申し込みはこちらから▶

